

# No. 1200

## 新しい電話

なんのへんてつもない一台の電話。どこが変っているかといえば、コードがありません。名付けて「コードレス電話」。この電話、屋内配線部分が無線になっていて、どこへでも持ち運び自由です。

こちらは小型、軽量化された「ミニ・プッシュホン」。普通のプッシュホンの3分の1の軽さ。スピーカーが組み込まれていて、机においたままでも相手の声が聞えます。

現在テスト中なのは「自動車電話」。自動車にのりながら通話できる日も近いでしょう。

情報化時代のスピードに追いつこうと登場したのは「会議用テレビ電話」。テレビ電話を応用して、遠く離れた相手と会議ができます。壁に内蔵されたカメラがあらゆる角度から会議の模様をとらえ、相手につたえます。会議ばかりでなく、同窓会やお見合など、テレビ電話でする日も夢ではなさそうです。

## 厳戒体制の夜

### — 新宿連続放火事件 —

東京・新宿。現代随一の盛り場の集まったこの街は昨年11月から火曜日ごと連続放火事件が発生し、今までに26件に達している。オトソ気分もさめやらぬ1月4日未明にはついに歌舞伎町で7棟約300平方メートルを灰にした。

1歩間違えば焼死者も出す大火になりかねない深夜の火災。警察官が徹夜で張り込む、警戒網を巧みにくぐり抜け神出鬼没の「火曜日の放火魔」その犯人像はまだ影さえわかっていない。

1月10日。久しぶりの曇天で星も見えない新宿の夜。街は普段と変りなく人通りが絶えない、今夜も犯人は果して挑戦してくるのか。犯行をますますエスカレートさせる犯人に、この夜警察の捜査は背水の陣をとった。所轄の新宿署では、竹之内署長が自ら陣頭指揮に立ち、総勢200人の捜査員に訓辞。これまでの手口などを分析して詳細に指示した。今度こそ、犯人の現行犯逮捕をねらい、歓楽の街に消えていった。

人通りもまばらになった1月10日午前0時、火曜日に入った街は緊張の度を増した。果して放火犯は現われるのか。相次ぐ放火に地元の商店組合では魔の時間帯にそなえて自警団を作って作戦会議。「今夜は火をつけられてたまるか」と真剣に打合せ消防署員も加わり総勢30人が1組、3、4人の組を作り街全体をくまなく見廻りする。

街角のいたるところに燃えやすいゴミが散乱、放火のパトロールに加えて今夜は、雑居ビルの並ぶ路地裏まで総点検。ゴミに水をかけて犯人に対抗。

まんじりともしない厳戒の夜が続く。午前3時まだ予断を許さない、警戒体制の下、見廻りも念を入れて行われ、不審者には特に目を光らせる。朝を迎え、緊張がほぐれた、ついに今夜は現われなかった。

新宿は放火魔のつけ込む、スキだらけの街である。犯人は盛り場の危険を皮肉にも浮び上がらせたようだ。